

令和7年度第2回岡山市基本政策審議会

令和7年8月1日（金）

1 開会

○司会 定刻が参りましたので、ただいまから令和7年度第2回岡山市基本政策審議会を開催いたします。

私は、本日の司会を務めさせていただきます政策企画課の由利でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

開会に先立ちまして、委員の交代についてご報告いたします。

前回の審議会以降、小野大作様が退任され、ご後任として田淵薫様が新たに委員にご就任されております。

それでは、田淵委員から一言ご挨拶をいただきたいと思ひます。

○田淵委員 失礼いたします。岡山市の連合町内会から出ております田淵でございます。

前任、小野大作委員が出席しておりましたが、2回目から私ということで替わりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

[谷一委員・日下委員入室]

○司会 ありがとうございます。

次に、開会に当たりまして大森市長からご挨拶申し上げます。

2 市長あいさつ

○大森市長 皆さん、こんにちは。大森でございます。

お忙しい中、また考えもしなかったような暑さの中、お越しいたごましてありがとうございます。

今回、総合計画を議論していただひてゐるんですが、この前の総合計画の10年間、当初はあまりまちがそれほど動いてゐるという感じはなかったとよく言われるんですけども、この近年、大きく変化をしているということを耳にします。大きな変化をしているというのは、当然ながら仕込みの時間が相当掛かってこういうことになっているということであり

ます。これからの10年間、どういうふうに関山を持っていくのか、それをこういう場で議論していただいて、様々なヒントを我々に与えていただければというように思っています。今日もよろしくお願ひいたします。

3 委員出席状況

○司会 ありがとうございます。

本日は、過半数を超える13名の委員にご出席をいただいておりますので、当審議会は成立しております。

それでは、これからの議事運営は阿部会長にお願ひいたします。

4 議事

○阿部会長 はい。ご指名いただきました阿部でございます。毎回会長を務めさせていただいておりますけれども、今回もどうぞよろしくお願ひいたします。

今、市長さんからお話がありましたように、今日が次回の総合計画に向けての基盤になる一番重要なお意見をいただく日かなというふうに思っております。皆様方からたっぷりとご意見をいただきたいと感じておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、座って進めさせていただきます。

まず、会議の公開と傍聴の取扱いにつきまして、事務局から説明をお願ひいたします。

○司会 事務局です。

本日、現在、傍聴希望はありませんが、あった場合は、特に支障がなければ、会議の公開と併せて傍聴の許可をいただければと思います。

○阿部会長 現在、傍聴希望者はないということでございますけれども、支障がなければ公開ということで、傍聴の許可をお願ひしたいと思ひます。そこら辺よろしゅうございませうでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、本日、会議の傍聴希望者がございました場合には傍聴を許可し、入室をいただきたいと思いますので、事務局はよろしく願いいたします。

それでは、早速ですけれども、議事次第に従いまして、まず協議に入りたいと思います。

岡山市第七次総合計画長期構想原案等につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○北川政策局長 政策局長の北川でございます。

資料に基づきまして、岡山市第七次総合計画長期構想の原案等について説明をいたします。

2ページをご覧ください。

2ページの長期構想の構成、また3ページの岡山市の強みと特性、4ページの時代潮流と課題認識は、本年3月に開催いたしました第1回の審議会でお示ししたものを改めて整理しております。

5ページをご覧ください。

これまでのご議論を踏まえ、このたび岡山市が次の10年で目指す将来都市像の方向性を整理いたしました。

まず、これからのまちづくりに重要な要素は「つながる力」であると整理しております。市民の課題認識でお示ししておりますように、若者ワークショップや地域ごとのワークショップで最も多く出てきたものが、つながりというキーワードでした。人と人がフェース・ツー・フェースで共感したい、何かをきっかけにして人とつながりたいというニーズが、特に若い世代を中心に高まっているものと感じております。

岡山市は、中四国のクロスポイントに位置し、国内の主要都市や四国、山陰、海外へのアクセスを有する中枢拠点としてあります。また、災害が少なく温暖な気候、多くの大学等を有する学術研究の拠点、医療機関の集積、古代吉備、戦国宇喜多家などの歴史文化、伝統、そういった特性があります。

これらの強みと特性をベースに、現行の第六次総合計画において、未来への躍動をテーマにしたまちづくりを進めてまいりました。岡山城リニューアル、ハレノワの開館、ハレまち通り1車線化、路面電車駅前乗り入れなど、不易流行の精神で、まちに新たな価値を生み出しました。

また、産業については、立地環境の優位性を生かした企業立地を進めております。

未来につながる子育てについても、保育の待機児童解消や、学力の維持向上、子ども医療費の助成、小・中学校の耐震化、エアコン整備等に取り組んでまいりました。

全国に先駆けた地域福祉活動の蓄積は今日へと受け継がれており、E S D活動は今や世界につながる取組となっております。その結果、10年で、まちの活力や魅力、暮らしやすさ、安全・安心は全体としてレベルアップし、それが市内生産の伸び率が指定都市比較で3位という成果に結びついているものと認識をしております。

これらを踏まえた上で、これからの岡山市のまちづくりには、これまで築き上げてきたまちや地域の力、経済の力、そして人の力、それぞれが持つ力をつなぎ、掛け合わせ、高めることにより、岡山市をよりステップアップさせ、新たなステージへと引き上げていくことが必要と考えました。中四国をつなぐ中枢拠点都市として、圏域の成長をリードしつつ、様々な地域資源を生かして、世代や地域を超えたつながりを深め、多様な人材が集い交流することにより、新しい魅力や価値の創造を目指してまいります。

あわせて、歴史文化をはじめ、各地域にある自然、地勢、都市環境などから形づくられている岡山にしかない固有の魅力を市民一人一人が再認識し、磨き上げ、積極的に発信してまいります。そして、まちの主役である市民と、目指すまちの姿を共有し、その実現に向けて協働、共創してまちづくりを進めてまいります。

これらを総括し、「「つながる力」で新しい価値を創る」といたしました。

2つ目として、ウェルビーイングのニーズが高まる中、岡山に暮らす一人一人がその人らしく生きるための選択肢が、まちや仕事をはじめ様々な場面に用意され、誰もが希望や夢の実現に向かって取り組むことのできる、心豊かに暮らせる、人中心のまちづくりを目指してまいります。これらにより、岡山市の総合力を一層高め、魅力と活力にあふれ、誰もが幸せを実感しながら安心して暮らせるまちを実現し、また国内外でのプレゼンスの向上を通してまちへの愛着を深め、住み続けることへの誇りを高めてまいります。そして、このような岡山市の姿が新たな求心力となり、市外からさらに多くの人や企業を引きつけ呼び込む好循環を創出し、国内外から選ばれる憧れのまちを目指してまいります。

これらを踏まえ、将来都市像の新たなキャッチフレーズを検討する上での候補となり得るキーワードとして、ページの上部に、つながる力、未来、創造、心豊かな、誇り、憧れ、そして桃太郎などを提示しております。本日、皆様方からご意見をいただき、次回の11月の審議会で案をお示ししたいと考えております。

次に、6ページをご覧ください。

将来都市像の実現に向け、各政策分野の取組を推進する上で大切にしている4つの基本的な視点を整理しております。

将来都市像の実現に向けて、暮らしの質の向上と、都市の成長、活力の創出の2本柱の好循環を生み出しながら、これらの基盤となる安全・安心を充実させることにより、市民の愛着と誇りを高め、未来に向けて進化し続けるまちを推進していくことが重要であると考えております。

まず1つ目が、暮らしの質の向上の視点です。

互いの権利や考え方を尊重しながら共生し、ライフステージにおける希望をかなえるまちや住みやすいまちとしての魅力をさらに高め、心豊かに生き生きと暮らせるまちの実現を目指してまいります。また、若者や女性が自ら望むライフプランを実現し、人生100年時代を迎える中、誰もが将来にわたる学びを重ね、健康に、その人らしく暮らせるまちを実現します。

次に2つ目は、都市の成長、活力の創出の視点です。

人口減少が進行する中でも、まちの稼ぐ力を一層高め、経済を持続的に成長させ、圏域全体の活力を創出します。また、様々な交流を通して、国際的なプレゼンスを向上させます。そして、まちなかと地域それぞれの特性を生かしながら、バランスの取れた発展と双方向の流れの活性化、相互の結びつきを強め、それぞれの賑わいや魅力を岡山市全体へ波及させてまいります。

続いて3つ目は、安全・安心の充実の視点です。

安全・安心の確保は、市民生活において最も重要な要素であり、豊かな自然環境と質の高い都市機能のどちらをも享受できる岡山市の特性をさらに高め、安全で快適、便利に暮らせるまちを目指すとともに、この豊かな暮らしを次世代に継承してまいります。

最後に4つ目は、愛着と誇りの醸成の視点です。

それぞれの地域や岡山のまち全体の特性、個性の理解と共有、積極的な発信、子供の頃から地域を知り地域を大切に思う心の育成、歴史文化、スポーツ等が持つ、つながる力を生かし、まちの活性化や一体感を醸成いたします。一人一人のまちへの関心が地域づくり活動の活性化へとつながり、まちへの愛着、誇りが高まることにより、さらに多くの人や企業に選ばれるまちを目指してまいります。

7ページをご覧ください。

長期構想の原案を基に、令和8年度から5年間の前期中期計画の柱立てとして、子ども・子育て・教育などの8つの基本方向を整理しております。この8つの基本方向に沿って、それぞれの施策を推進していくこととなります。

8ページ以降は、基本方向ごとに、各政策分野の主な方向性、政策・施策体系、想定している主な取組を整理したものです。本審議会のご議論、ご意見を踏まえまして、11月の素案に向けて政策・施策を整理してまいります。

私からの説明は以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、事務局からご説明いただきました内容も踏まえながら、皆様方からご意見を伺いたいと思います。

先ほど申し上げましたように、本日は非常に重要となる審議会でございますので、皆様方から漏れなく一通りご意見を伺いたいと感じております。私の勝手ではございますけれども、会議自体は1時間30分程度で終えるということを目的にしたいと思っておりますので、順番にご意見をまずはお伺いしたいと思います。

勝手でございますけれども、岡山委員さんからお願いして、反時計回りということでお願いしたいということで、お願いできればと思います。よろしいですか。

○岡山委員 この今のやつとかに対する意見的なこと。

○阿部会長 はい。

○岡山委員 つながるというのを前面に出したのはちょっと斬新的な感じはいたしますし、あと、いろんな言葉がちりばめられてる、大体カバーしてるような、いろいろあるので、してるのだろうとは思いますが、違う価値観みたいなもの、東京とは……。

○阿部会長 いろんなご視点から、広いご視点から言っていただければと思いますけど。

○岡山委員 東京とは違う価値観みたいなものをもうちょっと表現できないのかなという感じがいたしました。どう言えばいいのか、前、以前、ポートランドのロハスみたいな

メージがいいかなみたいなことも言いましたけど、それがどういう言葉なのか、なかなかいい言葉を思いつかないんですけど、ライフスタイルが東京とは違うんだみたいな、豊かなライフスタイルが実現できるんだみたいな意味のことがもうちょっと強まらないかなという感じはいたしました。

あと、若者が挑戦できるとか夢を実現できるみたいな意味合いのことがもうちょっと出てもいいのかなという感じはいたしました。昨日もちょっと、ももスタに行ってたんですけど、ももスタで何か、すごいですね、最近いろんな取組、イベントもやっていて、すごく若い人たちが集まってくるような感じがいたしまして、そういう岡山にいてもスタートアップであるとかが実現できるようなところを前面にもうちょっと打ち出してもいいのかなという感じを持ちました。

あとそれから、全体の理念の中に地域経済循環というか地域循環みたいなものが、ちょっと何かそういう言葉、それを想起させる言葉があまりないのかなと思うので、やっぱり岡山がいろんなものを持っているというのも地域経済循環に資するようなことにもなるし、もうちょっと人やものやお金が地域で回るようなところを目指すんだというようなことがあったほうがいいのではないかなという感じがいたしました。

それから、それと関連するかもしれませんが、SDGsのことを前面に打ち出す、前面でもないですけど割と打ち出してますけど、最近、SDGsが2030年で終わったらビヨンドSDGsで次の段階に行くみたいな話になっていて、岡山市の方も含めて私も含めて岡山大学で勉強会をやったりしてるんですけど、SDGsと言ってしまったらちょっと古くならないかなということがやや気にかかるなという感じがいたしました。

取りあえず。

○阿部会長 よろしいですか。

○岡山委員 はい。

○阿部会長 市長さん、こういう形で進めて問題ないですか。

○大森市長 まあ今は。

○阿部会長 取りあえず。取りあえずは、さっと皆さんご意見いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは次に、日下委員さん、お願いいたします。

○日下委員 はい。失礼します。

私、今年初めて参加させていただきます。何を申し上げたらいいのかというようなところからですが、今お聴きしまして、「つながる力」というところでお示しされたところで、いろいろなつながりというところで、分かりやすく4つの視点から示していただいているなというふうに思いました。「つながる力」というところで地域経済と、横のつながりもありますけれども、世代とか歴史とか、縦のつながりっていうところを感じます。

また、私が勤めてるところでは教育に携わる保育士や教員を養成しているところであり、子供の教育とか保育とか健康福祉のことを考える上では、働く人、教師や保育士のメンタルヘルスだったりとか、そういう働くことへの意欲だったりとか、やはり教員になる人がなかなかいろんな地域でも少なくなってきたりとか、難しいというふうに聞くことも多いです、いろいろな難しさというところも教育に携わる人たちがいろいろ考えておられるところだと思いますので、そういったところもサポートされながらつながっていくようなものが示していただけるといいし、それが生き生きと教員も、また高齢者だったら福祉に携わる福祉の人たちも介護の人たちも、働くほうの人たちも注目、着目されて、その人たちの安全や安心や健康や福祉や、また協働の多様性というものがより明確に出てくるといいのではないかなというふうに思いました。

あと、文化も超えて、福祉と文化であったりとか、そういうような面もあるかと思えますし、本当にいろんな可能性や魅力が詰まっているところが岡山の魅力じゃないかなというふうに思えますし、また関西からも近いところでもありますので、大阪からとか四国から、九州からとか岡山に集ってもらって、いろいろなそういう力が協働していくと、とてもまた楽しい魅力ある働きができるんじゃないかなというふうに思っていますが、個人的に私が大阪からこちらに来させてもらって勤めさせていただいているところがあって、本当に近いけれども遠くて、遠くて近いなということを実際に肌で感じますので、もっともっと関西の人がここに来てくださったらいいなというふうな思いからもお伝えさせていただきました。失礼します。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、齋藤委員さん、お願いいたします。

○齋藤委員 はい。私の守備範囲は医療・福祉・介護あたりですが、岡山市には、既にこうした資源が一定程度集積してると思います。これらは、魅力にはなる一方で、そこは、きっちり守備してゆくっていうんですか、漏れがないようにするという形を取る必要があります。例えば14ページのものは、こういうふうな箇条書になるのは当然だと思うんですけど、ここを魅力として打ち出す場合、特別何か秀でてるっていうのを書くのじゃなくて、岡山にいればこういうサービスはきっちり受けられますよということを書くべきだと思います。また一方で、先ほどのご説明にありましたように、ウェルビーイングっていうことが最近やはりキーワードになってると思われます。例えばウェルビーイングをキーワードに、もう少し何か、単に施策を並べるだけじゃなくて、横串を少し刺せるような表現があればいいと思うんです。

その中に、ウェルビーイングっていうのは何となく分かるんですけど、例えば政策にする場合は、キー・パフォーマンス・インディケーター、K P Iみたいに何か測定できるものが必要と思います。もちろん、それだけでウェルビーイングが測れるとは申し上げませんが、こういう考え方を広げていけば、まさにさっきありました地域の生産性みたいなものや市民所得とかも含めてウェルビーイングということになります。狭く医療とか福祉とか介護だけじゃないので、複数のダッシュボードというんですか、K P Iをうまく組み合わせるウェルビーイングナンバーワン都市を目指すとか、それは大げさですけど、キーワードにして、医療・福祉・介護だけじゃなくて、ほかの施策もそこにつながるようにしたらいんじゃないかなと思います。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、嶋田委員さん、お願いいたします。

○嶋田委員 はい。基本的なキーワード、つながるということなんですけど、我が建築士会でもフェスっていうのを一般の子供たちとか学生さんとかを集めて2年に1度やってるんですけども、去年ちょうどやったんですが、紡ぐっていうのをテーマにやったんです。

紡いでつないで未来につなげていこう、人とのつながりであったり、そういうものをつないでいこうというのをテーマにやっていたんですけど、若い人がこういうことを欲しているんだろうなというのを本当に感じます。なので、このキーワードというのは、つながるといふのを大事にしていくのが、現在皆さんが欲していることかなと私も思います。

まちづくりの基本的な視点になっていったときに、いろいろと細かく書いてくださってるんですけど、一番やっぱりでもベースにあるのは安心・安全っていうのが根っこには絶対必要で、だからこの基本的な視点の中のベースがあるんだと思うんですけども、昨今個人的に感じていることなんですけど、昨今いろんな事件が全国的に起こっているけど、ニュースではちょっとしか流れないので、何か怖い思いしか分からないんですけども、今普通にある日本の安心・安全っていうのがずっと守っていけるんだろうかっていう個人的な心配があります。だから、用水路の問題とか交通の問題とかあるんですけども、人間の生活としての不安がこれから今後大きくなならないようなことが訴えれたらいいなと個人的には思うんですけど、何かふわっとして、すいません。これは個人的な意見です。

あとは、建築というか都市計画というか、そういうことで言いますと、この10年いろんな施策をしてくださって、岡山がきれいに元気に明るくなってきつつあると思います。市庁舎もできたらまた市民の意識も変わってくるのかなと思いますし、路面電車をハレノワへ延ばす、あそこもできればまた人の流れも変わるのかなとも思います。あとは、やはり岡山に一番、そういう意味では、西川緑道公園であるとかそういうところが本当に、前もいろいろお話に出たと思いますけれども、もっといろんな、よその人からも身近に感じられるような空間にもっともっとなっていく、やっぱり人を呼ばないと、活性化していかないと経済は潤わないと思うので、よそからいっぱい来てくれることを、都市計画の中でそういう場面ができるところを整備していくっていうのが大事なかなと思いました。

すいません、ふんわりしてますが、以上です。

ごめんなさい、もう一点だけ。本当にまた個人的な話なんですけれども、私、最近、身内、親族で2人、女性が小学校の先生になりました。去年、今年と先生になったんですね。でも、この2人とも心が壊れてしまって、多分、今の学校の先生たちってすごい大変だと思うんですよ。若い人が希望を持って先生になるんだけど、何があったか詳しいことは分からないけれども、2人とも心が折れてしまったのがすごいショックで、何かやっぱり、教師を支えてあげるシステムもやってらっしゃるとは思うんだけど、もうちょっと力を入れてあげてほしいなと個人的に思います。

以上です。

○阿部会長 それじゃあ、高谷委員さん、お願いいたします。

○高谷委員 はい。失礼します。高谷でございます。ご説明ありがとうございました。

本当に、つながるといのはこれから大きなキーワードだというふうに私も感じてます。その中で、経済的な面で少しお話をさせていただきたいと思います。

今回、基本方針の中でもスタートアップという言葉が出ています。今、岡山市さんもいろんな形でスタートアップをされてますが、ただ、スタートアップというはある意味、今のスタートアップは創業支援みたいな形で、ユニコーンではないんですが、やはり100億企業、1,000億企業を本当につくっていくんだというのが世界的な今スタートアップなんですね。

今、商工会議所のほうも、今後どう取り組むか、今日、山本専務も来られてますが、やはり金融と経済ってこれもう切り離せない。投資をどうしていくかということを含めて、このあたりをもう少し、スタートアップの仕組みだとか、支援ではなくて、何か行政の方とそれから経済界それから金融系が一緒になって、本当のスタートアップというかユニコーンの企業をつくるんだ、それはまたテーマももしかして医療かもしれませんし何かかもしませんが、もう少し前向きな、支援というよりも、もちろん経済界が中心になってやんなきゃいけないということは分かってるんですが、そういう仕組みをつくるとか、少しそこは強めの政策をいただければというふうに感じました。

それともう一つ、ハレノワができて、本当に今、岡山の賑わいもさらに膨らんでるというふうに思いますが、この中に今、文化、スポーツ、歴史とかいうのはあるんですが、芸能という、この言葉がいいか分かりませんが。ただ、岡山もいろんな、バレエであるとか、それからいろんな今芸能的な、特にこれからは、まだはっきりは分かりませんが、これからはアリーナができるとそういう環境も変わってくるだろうし、もっと言えば、アリーナよりも今ハレノワが、大きな練習する場所がありますよね。ああいうところも本当に芸能、芸能というか、バレエであるとかそういうところもまた力を入れていくというのもこれから、せっかくそういう施設がある、やはりその人材、人をつくるという部分も何かそこへ1つ、ごめんなさい、芸能という言葉がいいか分かりませんが、そういうところを含めた何か言葉を入れていただくと、岡山にも高校、大学、いろいろ部活とかあると思います

んで、そのあたりをまた育てていくという一つのまた夢のある言葉も入れといていただければというふうに思いました。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、田中委員さんですね。

○田中委員 はい。失礼いたします。

あらゆることに努力してくれてる市だなと、そういう総花的なプランだからこそかもしれないけれども、そういう印象を強くしました。住みやすさナンバーワンを日本の中で目指してほしいなと個人的には思っております。まちの仕掛けとか仕組みとか、きれいなところとか、たくさんつくってくださって、とてもすてきなんですけれども、よいところを伸ばすというポジティブな発想はとてもよいと思って見えています。

私がこれに一通り目を通して気がついたのが4つあります。高齢者関係、子供関係、健康関係、そして、まちづくり関係ですね。

最初に、高齢者関係なんですけれども、私、先日、名古屋市の79歳の元教員の女性と話をしたんですけれども、そうしますと、地域に人材バンクがあって、そこに元教員ってことで登録しておいたと。そしたら、79歳になってもまだ非常勤講師の誘いが来るので、高等学校で教えてますと。国語の先生なんですけれども。だから、こういう高齢者の力をうまく活用できる人材バンクがあったら、名古屋だけじゃなくて我々も何かできるんじゃないかと。フルタイムじゃなくてもいいんですが、1コマ教えるだけでも恐らく経験を生かれますし、今、教員が足りませんしね。いい先生なんで、そういうところは取り入れられるんじゃないかと思ってます。

もう一つ、高齢者という意味では、私は去年、捨て猫を拾ってしまったんですが、それをどうしたらいいか市に相談しても、本当に冷たい答えしか返らなくて、非常に困ったんですね。一生懸命自分でしばらく育てて、予防接種もしてあげて、健康診断もして、トイレのしつけもして、ありとあらゆることをやって何万円も使った挙げ句、友達がやっとな引き取ってくれたと。だけど、これだけのことをしないと捨て猫がどこにも行きようがないんですね。自分で何とかしてくださいと言われてたんですけれどもね。

住みやすい都市と言うからには、動物をどうするのか。ペットをみんな飼うようになり

ましたから、特にお年寄りが倒れたときにそのペットをどうするのか。新聞でも話題になりましたけれども、それを引き取るネットワークとかNGOとかをしっかりと意識して育てないといけないと思いますし、捨て猫がまちに溢れて、自分で何とかしろと言われても、私は本当にいたたまれないので何万円かかけましたけど、こういう市民ばかりではありませんので、自分で捨ててこいと言われてもどうにもならないという、ちょっとこういう困ったところがあったことは報告しておこうと思います。

次に、子育て関係なんですけれども、子育て支援策としてはいろんな補助金とか考えてくださって、ありがたいと思います。でも、まだほかに市にできることはあるなというふうに思っています。例えば、上手く行ってる、上手に子育てしている、そういう会社を市が表彰してくれるとか、こういうのは賞状とか賞金とか記念品とかでできますし、そうしますと引き上げる方向への力を下さるんじゃないかなというふうに思っています。

もう一つ、子供という意味では、都会に行ってしまう若者というのが割と私たち聞くんですね。地域企業の方から、何でおたくの大学の学生は都会に行っちゃいますかと、もっとうちに来てくださいとか、何度も言われるとこなんです。そうしますと、どうしてそうなるのかというところをやっぱり考えないといけないと思っています。都会の何に引かれて行くのかですよね。住みやすい都市がせつかくここにあるのになぜ彼らは行くのかというところをよく考えていかないといけないかなというふうに思っています。

それから、健康なんですけれども、健康の策がいろいろあって、いいところだなと、医療機関も多いですし、そこは恵まれてると思っています。ただ、保健教育という言葉はあるんですけど、健康教育っていうワードが出てきてない。健康教育学会ってのもありますので、健康という教育テーマ、これを、保健指導じゃなくて健康教育、もっと使ったらいいと思っています。健康心理学っていう学問があって、私もやってるんですけど、健康心理学を取り入れれば、例えばたばこをやめる、でも押しつけるんじゃなくて、指導したり命令したりするんじゃなくて、人の気持ちに沿った禁煙指導ができますので、健康心理カウンセラーもいますから、こういう上手に指導できるプランをもっと入れてくれたらいいのになと、健康心理学を積極的に取り入れる自治体であってほしいというふうに思っています。

健康という点でいきますと、健康心理学をやってる私から見ますと、休養も大事だと言いたいんですね。これで栄養とか運動とか書いてありましたけれども、働き過ぎ改革にも何か手をつけないと、健康というのはちょっとまだ足りないところがあるんじゃないかな

と思っております。

それから最後に、まちづくりの話ですね。これは前にも言ったことなんですけど、スポーツかける文化で、できることがあるだろうということですね。せっかく晴れてるので、映画のコミッションを呼ぶとか、スポーツ映画とかスポーツライブラリーとかスポーツ図書館とか、いろんなものを文化と組み合わせていったらいいのになというふうに思ってます。アーバンスポーツでもいいと思いますけどね。

それから、防災力って言葉が何度も出てきますけれども、また別のページには、災害が少ない都市とか書いてあるんですね。だから、これをどうやって一致させてみんなの気持ちに結びつけていくのかというところがちょっと乖離してるかなと思うので、ここをもうちょっと埋めてもらえるとありがたいです。

最後に、水辺空間の使い方、これは上手に工夫して下さってると思うんで、ここはうまく育てたらいいと思っています。例えば、水と緑と自転車のまち岡山とか、そういった意味での、水がたくさんある、それをいいほうに生かすっていう発想は私はすてきだと思ってます。何かニックネームが欲しいですね。私が住んでたアメリカのシアトルという都市はエメラルドシティって、森林公園みたいなところがたくさんあって、湖があって、本当に木の緑と湖の水ですてきなとこだったんですけど、岡山にも何かそういう象徴的なニックネーム、何とかシティとか何とかなまちとかがあるとすてきなというふうに思ってます。もちろん、古代のまほろば都市岡山とかでもいいですし、それからグリーンと水辺の岡山でもいいですし、何かすてきな名前を用意してくれるといいかなと思っています。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、少し飛び越しまして、山本委員さん、お願いいたします。

○山本委員 はい。山本でございます。

本当にすごいよくまとめられていらっしゃるというのが感想です。私のところも10年計画をつくりましますけども、難しいですよ、10年計画。来年のことも分からないのに、10年先のことをつくらなければいけないと。だから、何となくイメージで、皆さんが見て、10年後、岡山市さんのやられてる施策を実行するとかいう世界観なんだなというの

が本当に一枚のスライドで分かるぐらいのもので、わくわくするようなものを見せていただければ、それが恐らくこのキーワードをつないでいって、この将来都市像というところがそういうふうになるんだなというふうに思います。キーワードの中で1つ、読んでいくと、共創とかってという言葉が出てくるので、共創というのもいいのかなというふうに個人的には思いました。

あと、読んでいきますと、確かに今現在で注目されている例えば女性活躍とかそういったものも、10年間を通して見ますと、早い段階でできれば定着して、教育であれば生涯学習という言葉がありましたけども、子供の方の教育問題は当然優先的にやりつつも、岡山市民の全員がそういう教育をサポートする仕組みであったり、健康のところの高齢者とか障害者の方、介護が必要になっているところはよく出てくるんですけども、さっきお話があったように岡山市民全員が健康にならないといけないということなので、若い方から、もちろんご高齢の方も含めて、健康というところの施策が全員に対するものが、もう少しあってもいいのかなというふうに感想を持ちました。

あとは、スポーツのまちづくりはもちろん今主流ですけども、岡山はユネスコの文学創造都市っていう、日本で初という、岡山市だけっていうところをもう少し、1行あるんですけども、文学を通じたっていうところが、そこをみんなで盛り上げてもいいのかなというふうに思いました。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、福島委員さん、お願いいたします。

○福島委員 はい。6ページのところ、先ほどご説明がございましたけれども、キーワードを中心にアンダーラインのところを読み上げられながら、センターにあるカラーの図できれいにまとめられているのは分かりやすいなっていうことは感じましたけれども、私自身もやっぱり住みやすいとか生きやすいっていうところや、自分は教育関係の人間ですので、教育とか子育て支援、そういったところに非常に、中身を讀ませていただいておりますけれども、まずは安心・安全というところでは、自然災害が少ない、あった場合にはこういう策が打てるんだというところをしっかりとPRしながら、大都会に憧れて出ていく若者はいますけれども、岡山市規模のそういった都市のまた魅力であったり生活の魅力もあ

と思うので、そういったようなところがしっかりと今後10年またPRできるような岡山市になっていってくださったらなということは思っております。

教育のほうで見させていただきますと、今、次期学習指導要領というのも文部科学省のほうで検討されていて、まだ中途の検討段階ですけれども、学んだ力を自分の人生とかあるいは社会にどう生かすか、結びつけるかっていうようなところとか、実際に生活の中や社会の中に出てきた課題、そういった課題を学んできたことの中からそれを実際にどう学びを結びつけて解決するかっていうような力、そういったところに課題があるというような、どうも審議みたいな内容を読ませていただくと、そういったところも出てきてるようです。したがって、今ちょうど時期的に全国学力・学習状況調査のニュースというのも割と出てきていますけれども、認知能力である学力、点数で測れる部分以外で、これからの時代に生き抜く子供たちを育てようと思ったら、4Cというような言葉で、コミュニケーションとコラボレーションとクリティカルシンキング、そしてクリエイティビティーっていう、そういうのを耳にすることもあるんですけども、そういう非認知能力的なものっていうのもしっかりと学校現場でとか、あるいは社会全体で培っていきけるような、そういったことも、今後岡山市の子供たちにこういった力をつけるんだというようなところの見えるものっていうのも示していくと、ある意味、教育そして子育て支援、そういったところに力がまた出てくるんじゃないのかなっていうようなことも感じております。

それからもう一つ、先ほど、教員の疲弊というか、結構現場が疲れるというお話もございましたけども、やはり働き方改革っていうのも進んではいるんですけども、文部科学省も3つに分類して、学校がしなくてもいいというような、そういった今現在やってる業務も分類されてるものがありますけど、やはりそういったところは地域とか保護者の理解がなかったらなかなか進まないというような中で、やっぱり先生方には授業での授業力を発揮してもらったり、あるいは子供たちの児童理解とかそういう支援をする力っていうのが本当に発揮できる時間、場、そういうものを確保できるように、そこら辺は子供を取り巻くいろんな大人たちがいろんな立場から関われる、そして専門的なもので援助できるっていうようなシステムを築いていけたら、より教育、子育てっていうところも充実していくんではないかなと思います。

それからもう一つ、男女共同参画のところ、12ページでしたっけ、新しいところでLGBTとかそういうのも出てきてますけれども、相変わらず、固定的な性別役割分担等の解消に向けた周知啓発という、20年前ぐらいから、もうこういう文言は結構出ていて、今

それがどれぐらい時を経て進んできているのか分からないんですけども、こういったところも個人的に思えば、自分のパートナーがやってたことより自分の子供世代が勝手に関わってることのほうがより固定的な分担っていうところは理解も進んできてるのかな、やってるのかなっていうのは思いますけど、やはりこれも職場とか企業、そういったところの協力もなかったら、なかなかその、もう仕事で手いっぱい家庭には時間を割けないという現実もあるんだと思うんで、そういったところをもう少し何か、この言葉だけ見ると旧態依然としたような印象しか受けないので、何かないかなというように感じています。

以上でございます。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは続きまして、西田委員さん、お願いいたします。

○西田委員 はい。失礼いたします。

次の世代につなぐためには、人と人とのつながりが大切だと思うんです。だから、この「つながる力」いうのはとてもいいネーミング、キーワードではないかと思っております。そして、魅力のある岡山を目指して、今まで以上に岡山市政のほうをよろしくお願ひしたいと思います。そして、私たちの意見も取り入れていただきまして総合政策とか施策を考えていただいて、とてもいい構想ができていますので、今まで以上によろしくお願ひいたします。

○阿部会長 ご希望をいただきましたけど、ありがとうございます。

それでは、田淵委員さん、お願いします。

○田淵委員 はい。失礼いたします。

町内会から出とりますんで、どちらかといえばそちらの立場でしゃべりますと、「つながる力」、その中に、基本方向の2で協働とか、基本方向の6で安全・安心とか、最小の組織単位かなと思う町内会に係るところもしっかりあるのかなと。重要だということで政策局長さんが説明いただいた内容については、どれが違うとかいうことは全くなくて、ああそうだなと理解できるんですが、それぞれのところを具体的に進める上で、例えばさっ

き高谷委員さんが言われとったですけど、ちょっと踏み込んで、スタートアップのところ
で具体的な政策があればとか、そういうところが今後どうなるかというのが気になる。

ですから、協働、市民主体というのはもちろん正しいですし、最近市のほうで町内会支
援をしっかり頑張ってやっていただいておりますんですが、それでは今そ
の町内会、多分ここにおられる方、岡山市はそういう町内会に分散されて、大多数の方が
町内会に組み入れられてると思われとるかもしれんですけども、町内会の組織率いろ
は、町内会の加入世帯数と市の世帯数と比較すると70%台なんですね。ですから、二十
何%は町内会に入っていない。もちろん、入っていないというだけでなく、学生さんなんか
は町内会でも把握し切れないんで町内会の数に入れないとか、いろいろ理由はあるんです
けど、70%台です。

町内会の課題としたら、面で安全・安心をやろうと思うと、誰が町内会に入るとる入っ
てないとか関係ないんで、面で見ます。最近、非常にそういう面では、さっきも言いまし
たが、支援ですね。町内会だけでやりようったものが、市からの支援が増えたんで、やり
やすくはなっとなんですが、さらに具体的に進める内容、安全・安心にしても地域で支え合
う、そのとおりで思ってます。ですから、民生委員さん、社会福祉協議会なんかがあ
りまして、しっかりとそういう要支援者を把握して、町内会がそれに手助けして、一人も残さず
に、何かあったときに避難ができるようにと、非常に重要な内容だと思ってます。

ですから、言葉として重要に、この「つながる力」の中に入れていただいて認められ
るといのは本当にいいことだと思うんですが、具体的にどうするかというのは、この次
の計画か何か、あれなんですけど、そこを詰めないと、地域一人一人が共通認識がしづ
ら。言葉としては、みんな反対することはないと思います。ただ、一人一人がこうして
くれたら行政的に動きやすいとか、何かそのあたりのところを、この次の段階かどうかは
分かりませんが、しっかりと一般の人に分かりやすい言葉で具体性を出していただければ
より効果が上がるんじゃないかなと、そんな感じがします。

全体の内容について、政策局長さんが説明された内容を聞いておかしいなという感
じはないんです。具体的なところというところで、今後さらに期待させていただきたい
と思っておりますので、よろしくをお願いします。

○阿部会長 ありがとうございました。

それでは、谷一委員さん、お願いいたします。

○谷一委員 はい。第七次総合計画長期構想の原案も、前期中期計画の政策体系等の案も、それ以外のところも、なかなかよくまとめられてよくできているように私にも思えます。トップがいいのかスタッフがいいのか、恐らく両方がいいんだろうというふうに思いますが、なかなかこれだけのものはできないんじゃないか。皆さんおっしゃったように、「つながる力」というのは、やはりいい言葉だと思います。岡山にしかない魅力、新しい価値を創造していくという、新たな価値と魅力を創造していくという、このあたりに非常に力強い意欲が感じられます。

かつては西川緑道公園、本当は2車線でやる予定が、いろんな事情から半分になったりもしましたけれども、あれをやった頃の熱気みたいなものがあるんじゃないでしょうか。最近では、県庁通りの1車線化みたいなものも非常に政策的にはよかったと思います。政策的にはいいんですが、じゃあそれを一般市民がどのぐらい理解しているか。享受している人はたくさんいるんですけど、あって当たり前とか、よくて当たり前みたいに思ってるんじゃないかという気がして、なかなか残念なところがあります。

何もしない首長もいますけど、多選、何選でもできるんですよね。何かすると必ず反対派が出て足を引っ張るというか、いろんな面倒なことを言ったり、そういうところはあるんですけども、でもそれを恐れず、正しいと思った政策、これは大事だと思った政策はやっぱり突き進んでいただくというのが、今、岡山市はそれができていると思いますけれども、非常にいい方向性じゃないかなというふうに思います。

高谷委員が言われましたハレノワ、具体的に言うと、しょっちゅう行かせてもらってますけど、大成功ですね。大成功ですが、シンフォニーが今、休んでるんです。シンフォニーは、クラシック音楽にほぼ特化したすばらしい劇場というか演奏会場として、僕は岡山へ帰って来てびっくりしたんですが、こんなのができたんだって。渡辺圭介さんという突出した人がいて、その人が最後の力を振り絞って造ったようなところがあったのかなとも思いますけども、ハレノワは演劇、オペラとかも含みますけど、演劇にどっちかという特化して造ってるんですよね。そうすると、私は専門家ではないんですが、何が違うのかというと、やっぱり反響板の数が違うんです。そうすると、例えば具体的にどういう状況が起こってくるかという、シンフォニーが今お休みだから岡フィルの定演をハレノワでやろうか、やれないことはないんですが、やっぱり、小ホールは論外ですけど、中にしても大にしても反響板の数が違うので、要するにクラシックに特化してないので、それがなかなか難しいんですね。

そうなる、岡フィルが、どさ回りで行くしかない。倉敷に行った、この次はレクザムで香川に行って、東京に殴り込みをかけてみたいなことにだんだんくなっていく。それはそれでいいと思いますけれども、そういった意味で言うと、これは個人的な感想ですが、演奏者もちょっと言ってますけど、市民文化ホール、今潰れてますけど、市民文化ホールのような収容規模の、収容規模に合わせてハレノワを造ったんですが、あそこの部分が一番クラシック音楽用としてのホールとしては弱い。なので、私個人としては、演奏者も言ってますけど、市民文化ホールを返せって言うてる人が随分いて、これは反響板と音響の問題なんです。できれば余力があれば、市民文化ホールの代わりになるような規模の、あのレベルのあの規模の、あれよりもっと音響がよくてもいいですが、ホールが1つぐらいあっても市民にとって悪くないのかなというような気は私にはします。

でも、その分ハレノワはやはり、よく演劇とかも見に行くんですが、小ホールも中ホールも、小も中もですけども、特に小ホールですが、本当に日本の最先端の役者が来てやってるんですよ。あまり一般の市民は知らないかもしれませんが。そのコアなファンというのは岡山の人だけじゃないんです。それを見るためにわざわざ神戸から来る、京都から来る、東京から来る。全国からとまではいかないかもしれないけど、東京では大体見られますから、結構なコアな人たちがちゃんとやってきて支えている。そういう人たちがいるので、演者のほうもそれに勝るとも劣らないというか、かなりのトップレベルの人たちがやってきて岡山でやってる。まだあまり一般の市民もマスコミも認知してないかもしれませんが、ハレノワができたおかげで岡山が演劇等の部門では日本最先端をいつている。これが一つの芸術劇場というか、建物の意味、新しい建物を造った意味。何にでも合うっていうのは、何にも合わないんですよ。そうじゃなくて、あるところで特化して、これのために造った劇場というのは、それなりのプログラマーなりそういう人たちをちゃんと抱えてさえいれば本当に日本一になっていく、そんなところを実感して感じているところがあります。

ちょっと具体的な話になり過ぎましたが、以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

それじゃあ、杉山委員さん、お願いいたします。

○杉山副会長 冒頭のキーワードのところのまとめの中で「つながる力」っていうのを入

れていただいて、とてもいいなというふうに思ってます。やはりみんなで何かつくっていき、そういう岡山市であってほしいなというふうに思いますので、みんなの力で共創していこうということで、それを多方面、文化とか、結節点としての地域的な優位性みたいなところを全てつないでいく、そういうことを複合的にやっていくまちだということで、とてもいいキーワードではないかなというふうに思っております。

まちづくりの基本的な視点のところなんですけど、実は、前にも申しあげましたけども、こういう長期総合計画をつくる場合に考えないといけないのは、やはりマクロの動向がどうなっていくのかということで、以前のこの会議で発表されたように、岡山市ってのはとても恵まれていて、外国人を入れると70万をほぼ10年間維持できるという、そういう希少なまちなんだろうというふうに思います。なので、恐らく行政というのはオフENSIBな施策とそれからディフェンシブな施策の両方ともが必要なんだろうと思うんですけども、まだ積極的に攻めていけるのが岡山の強みだと思います。

たまたま美咲町の青野さんとは親しいんですけど、青野さんはスマートシュリンクって言って、いかに、人口減少の中で不必要なものをつくらないかということを実行されています。そういう政策しかやっていけないという状況にあるような市町村がある中で、岡山市はとても恵まれていると思います。とにかく大森市長さんをお願いしたいのは、積極的に攻める。早く、しかもあまり時間をかけないで早くやらないと、10年というのはあっという間にたってしまうので、バランスよくオフENSIBとディフェンシブを進めていっていただけたらとてもいいというふうに思っております。

1番目の子ども・子育て・教育のところなんですけども、ちゃんと不登校ということは書かれてるんですけど、やはり今最大の課題というのは不登校なんだろうと思います。この対策のためのフリースクールをどういうふうにするのかということは前にも発言をさせていただきましたけど、東京都は月2万円ぐらいフリースクールに支払ってもいいということで、年間24万ぐらいは負担しますということをやってらっしゃいます。多様性ってのは別に民族を超えた多様性ってことじゃなくて、同じ生徒の中でもいろんな生き方があるので、それを支援するというので、もう少しフリースクールについての配慮をしていただけたらいいのではないかなというふうに思ってます。

それから、基本政策2番目の協働・多様性ということなんですけど、ここに外国人の人口推移というのがあって、これがずっと2万とか3万とかちゃんと維持できていけば、70万というのはそう大きく変わらないで維持できるだろうというふうに思います。とは言

いながら、それだけのことはあるので、どこかのまちのように突然、外国から来た人が誰かを殺してしまうとか襲ってしまうとか、そういうふうなことを防ぐために何をやったらいいのかというと、やっぱり多様性をどう中に取り込んでいくのかということがすごく大切だと思います。例えば、私はニュージーランドに住んでいたことがあるんですけど、ニュージーランドなんかは、英語が母国語じゃない人たちに対して小学校を開放して、夜、小学校で簿記の講義をすとか英語の講義をすとか、そんなことをやってるんですよね。日本には公民館という非常に優れた施設があるので、公民館をもっと活用して、この人たちが中に溶け込むような、そういうことを考えていかれたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

それから、鍵になるのは実は、江戸時代の5人組とか、バングラデシュのグラミンバンクと一緒に、要は何人かの人に共同責任を負わせる、一人でやらせないで、グラミンバンクの場合は3人保証人がいるというふうに聞いてますけど、江戸時代は5人組で、5人組が責任を持たせられるということなので、要は、ほかの国からいらっしゃった方たちも岡山市民が5人ぐらい囲い込むみたいな形で、新しい形の5人組みたいなのができて、協働で何かをすということがあればいいなというふうに思っています。私はちょっと不勉強で分かんないんですけど、うらじゃっていうのは文化イベントとして既に定着をして、多分日本の国内でも、うらじゃというのは、もうちゃんと知名度が確立してるというふうに思いますが、うらじゃの中にベトナム連とかネパール連とかそういうのがいっぱいあってもいいんじゃないかなというふうに思います。これはスポンサーとの関係とかいろんなことがあってできないのか分かんないですけど、やはりそういう多様性を中に取り込んでいく、そういう努力をしていくべきではないかなというふうに思っています。

それから、産業のほうで、多分ここは高谷委員と私が特に発言をしないといけないというふうに思っておりますけれども、起業家の拠点である、ももスタは設立当初から関わらせていただいている、上手く育ってきたなというふうに思っております。そして、山陽新聞の紙面か何かで読んだんですけど、人口比で見ると、岡山の起業家、新しい企業の発生率は結構高い比率になっているので、やはりこれを維持するということが大切だと思います。藤田君なんかと一緒にセトフラというベンチャーファンドもつくりましたので、こういう若い人の動きをしっかりと育てていけば10年後が非常に楽しみなんではないかなというふうに考えております。

それから、何度も申し上げますが、岡山市内には立派な農業高校があります。高松、そ

れから興陽、それから瀬戸南ですかね、非常にすばらしい農業高校があるので、そういう高校がやっつてることをもう少し市民の方へ知らしめて、農業も岡山市はちゃんとやっつてんだということを考えていただけたらというふうに思いますし、これも繰り返しになりますけれども、岡山はモノラックのニッカリさんなどのようにオンリーワンとかナンバーワンの企業が非常に多いので、これをもっと市民にPRして、そして市民と共に、そういう広報活動とかやっつていくのが大切なんではないかなというふうに考えております。

そして、歴史文化、スポーツのところなんですけど、ここは谷一委員がお話をされましたけど、やっぱり最終的には何が定着するかということだろうと思うんです。うらじゃも、もう長くやっつていて、やっつと定着してきた。これは冒頭大森市長さんからもお話があったように、何かスタートして、ちゃんと定着するには、やっぱり20年とか10年とかの時間が掛かるので、それは同じように時間をしっかりかけて実行する。ロンドンに住んでいると、ロンドンの夏は今頃から9月の末までプロムスというコンサートがずっとほぼ毎日開催されていて、そのプロムスの最後にみんなが、第二の国歌だという歌をみんなで歌います。

○谷一委員 「威風堂々」。

○杉山副会長 はい、「威風堂々」です。そういうことが盛り上がっていけばいいというふうに思いますので、その中に多様性、ベトナムの方が結構増えてますけど、ベトナムとかネパールとかそういう方たちも入っていくようなことを考えていくということがすごく大切で、ハレノワのお話が谷一委員から出ましたけども、そこでもミュージカルとか演劇は結構私の想像以上に広がってきているので、そういうところでも何かベトナムの方がやるとかミャンマーの方がやるとか、そういうふうなことが日常的にずっとできていって、それが年に1回、うらじゃと同じような何か大会とか、なんとかという形で表現できると、全国的にも知名度を上げていくことができるんじゃないかなというふうに思います。そういう多様性を取り込む構想を持って、ぜひ進めていっていただけたらというふうに思います。

最後に、「圏域をリードし、まちの持続的発展を支える都市経営」のところなんですけど、岡山市は岡山県の2大河川である旭川と吉井川と2つを持ってらっしゃいます。倉敷は早くから、高梁川流域で何かやろうよということで、高梁市とか新見市を巻き込んで交

流会とか講演会とかやっています。ぜひ吉井川流域それから旭川流域を岡山市がまとめるんだと、そういう中で、別に大げさなことをやる必要はないんですけど、年に1回か2回はそういう人たちと、例えば商工会議所の会頭は西大寺の北前船というのをあちこちでお話をされているので、吉井川流域の方たちを呼んで北前船と高瀬舟の話をするとか、そういう交流をぜひやっていただきたいなと思います。

これは全く第七次総合計画と直接には関係ないんですけど、日本だけがいまだに上水道、下水道というのを市町村に全部やらせてるんですよ。こんなばかなことはなくて、ちっぽけな市町村なんか対応できない状況になっています。専門家がまずいない。専門家がいなくて、ひょっとすると近くに業者もいない。だから、ほかの国は全部別会社にして、上水道、下水道って完璧に全国区の別会社が経営というか運営してるんですよ。少なくともこの吉井川、旭川流域のところについては岡山市が上水道、下水道の責任を持つ。もうインフラができてから50、60年になりますから、やり直さないといけない時期に来ているので、そこのもぜひサポートしていただけるような、そういう岡山市になっていただけるといいなというふうに思っています。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

これで一通りご意見いただきまして、私からも一言、お願いいたします。

この総合計画というのは、私、実はもう30年近くいろいろと立ち会っております、なかなか、一般的なことが言われて、前に進んでいかない。それから、30年間の間に、都市の考え方、都市とはどうあるべきかというのが大分意見が学問の世界でも進んできたように思います。そういった意味で、今回は非常によくまとまった、キーワードを全部散りばめられて、まとまってるんですけども、ここから何をするのかと言われると、よく分からないところがあるので、それがこの審議会に求められてるのかなとも思いますけども、その辺をしっかりと考えて、これから5年、10年どうしていくのかということ、これは岡山市にとってのこれからの発展のキーワードになるんじゃないかなというふうに思います。

そういう意味では、ここに例えば6ページなんかで書かれておる視点の方向性なんか、これはどこでも出てくる言葉で、この中で岡山市の特色は何かということ、これをぜひ考えていただきたいということと、それともう一つは、それを具体的に実行していくというのがないと、言葉だけで終わってしまうというのが結構ありますんで、そのあたりはお願い

いしたいと思います。

そういう意味で、先ほど申し上げた、30年間の間、路面電車とも付き合っただけで、始まりが商工会議所で始まったときは、日本全国をリードしていく非常に新しい、それから岡将男さんですかね、NPOも非常に新しい取組であったんですけども、もう30年間の間にすっかりと全国の中でも少し後ろに下がってしまったという感じがしまして、これはぜひ、今の市長さんは理解ありますんで、頑張ってくださいなというふうに思います。

それから、中に私が会長で取り組んでおるESDという言葉があるんですが、ESDもSDGsが出てきて、何の言葉なのかよく分かりにくくなったところがあって、この中の本質的なところは、先ほど来委員さんから出ております教育ということ、教育それから人材育成ということ、これをどういうふうに反映していくかということが、これは最初から問題になっておることでありまして、そのあたりを曖昧にしないように、ぜひ岡山市の特徴となるように進めていただきたいなという気がいたします。そういう意味で、先ほど来市長さんからも言われておりますけども、この中でいかに多様性を反映した形で都市像というのを新たにつくっていくかということが、これが重要ではないかなというふうに思います。

それから、ここ数日の津波騒ぎとか、それから酷暑の問題とかいろんなことがありまして、持続可能性といいますか、それからSDGsで謳われているように地球レベルの問題というのが市民の頭の中にも入ってきたんじゃないかなという気がいたします。そういう意味で、ぜひ分かりやすい形で市のほうで示していただいて、子供からお年寄りまで、そういう持続可能性の問題に取り組んでいけるように、何か仕掛けを考えていただければなというふうに思いますので、ぜひよろしく願いいたします。

取りあえず、ざっと思いついたところで申し上げました。

それでは、一通りご意見を伺いました。中にはご質問もあったようでありますので、これは事務局のほうからお話いただくか、市長さんのほうがよろしいですか。どちらでも結構ですけど、よろしく願いいたします。

○大森市長 それでは、難しい問いに関しては事務局から。私のほうは、今出てきた話の中で2点申し上げたいと思います。

1つは、つなぐっていうことを評価をいただいたんですが、話はちょっと飛びますけれ

ども、今この10年間の民間投資の伸びは、岡山市は政令市の中で2番目なんです。それを自慢したいから言ってるんじゃないくて、1番はどこだと思います。西田さん、分かりません。

○西田委員 分かりません。

○大森市長 千葉市なんですよ。通常こういう質問をすると、福岡だとか仙台だとか札幌だとか、そんなイメージがやっぱりみんな出て、それは、そこそこ皆さんいいんですよ。だけど、東京の一極集中が続いていて、東京でもう家が建たない。民間投資ってのは住宅投資をやりますから、そして千葉市へ逃げて行ってるんですね。

ちなみに、市内GDP、市内総生産というのは岡山市は第3位なんです。これもなかなかいいんですが、1位はどこか。これは堺なんです。これはこの10年間で何があったかっていうと、やはり大阪も再開発がどんどん進んでいると同時に、万博の建設もありました。でも、それは大阪で吸収するんじゃないくて、堺とか神戸とか、そういったところに行っているんです。これは何かというと、まだまだ大都市への集中っていうのが進んでいる、こういうのが1つある。

この中で、今日お話がありましたように、つなぐ力っていうのは若い人も好んでおられる言葉だと。多分、人間って何かそういうふうに変化しつつあるんじゃないか。福島さんがおっしゃいましたけど、岡山規模の魅力っていうのは一体何なのか、阿部先生も、岡山の特色って何なのか。もちろん中四国の交通の要衝の地であるとか、いろんな要素があるかもわからないですが、やっぱり人口の70万っていう規模という規模感、倉敷と合わせても110万、120万ぐらいの規模感っていうものが私は非常に大きな要素なんじゃないかなというように思います。したがって、こういう都市が一体どういう、我が国にとって、また住む人間にとって、どういう意味を持つのかということをもっと強調していかないといけないのかなというように思います。それは経済だけでなく、保育、子育てであるとか福祉であるとか医療など全てを全体としてそういうふうに行っていくっていうことがあるのかな。

これは後で速記があるから残っちゃうんですけど、例えばこの前、健康寿命ってやってまして、今日も健康の話が多かったんですけど、健康寿命って岡山は延びてはいるんですけど、岡山市って案外高くないんです。それは齋藤さんの話じゃないですけど、医療がしっ

かりしてるから、すぐ病院へ行くからってよく言われたんですけども、広島に比べて健康寿命は低いんですよ。じゃあ、何で広島が岡山市より高いんだ。ここはどこにも答えはないんですけども、これはある人いわく、広島カープの応援に行く、サンフレッチェの応援に行く、いろんなそういう施設が揃ってる、したがって高齢者も外に出る、こういうのが大きな要素なんじゃないかなと。彼らも岡山、倉敷と合わせたぐらいの人口であるわけでありまして、十分経済的にも我々としてもできないわけではない。そういったことを一つ一つオフENSIBに考えていかなきゃいけないのかなというように思っております。

それで2つ目は、今日、高齢者の話、女性の話、外国人の話が出ていましたけれども、私、この10年を見てみると、高齢者が仕事に従事している、その人の数が1万1,000人ぐらい増えてるんですね。女性は、数字は持ってないんですけども、保育の定員増だけで5,000あるんです。それが、プラスアルファとして保育士も当然要りますから、6,000ぐらいは増えている。保育士が全部女性ってわけじゃないですけど、これが1つ、女性たちもここまで来ている。

もう一つ、この10年で社会増って、岡山市6,000人なんです。その6,000の内訳を見ると、全てが外国人なんです。日本人は全部、行ってこいなんですね。ということから見ると、もう少し多分伸びていく、これをどうケアしていくかっていうのが重要だろうし、それがケアし切れなくなったときに、今日、経済界の方、山本さん、高谷さんがおられますけれども、そういう生産性というのを上げていくためにどういうことをやっていくのかってということが重要かなというように思ってます。

それぞれ丁寧にやりながらそちらのほうは対応していきたいと思っておりますけれども、岡山市っていうものが我が国にとってみても、やっぱり例としては5つ6つぐらいしかない例の中の一つなんで、これは大切に主張していきたいなというように思ってます。

以上です。あとは北川さん、よろしく。

○阿部会長 ありがとうございます。

それじゃあ、お願いできますか。

○北川政策局長 ありがとうございます。

委員のご指摘で、個別の施策について幾つかご意見をいただいております。そちらにつ

きましては、11月に素案をお示しすることで今準備をしておりますので、その素案の中で検討させていただければというふうに考えております。

以上でございます。

○大森市長　じゃあ、教育長。

○三宅教育長　失礼します。教育長です。

教育関係についてもご意見をいただきました。同時並行的に教育委員会でも教育振興基本計画を今策定中で、同時に来年4月1日から実行していくことになるんですが、この中で、今日のご意見があった中で、総合計画に載せるものと教育委員会独自のものに載せるものとしっかりさび分けして取り組んでまいりたいと思っております。ありがとうございます。

○阿部会長　事務局のほうはよろしいですか。

○高谷委員　すいません。

○阿部会長　いえ、今度は委員さんからご自由にやろうと思いますんで。どなたでも。

高谷委員さん。

○高谷委員　すいません、突然。今、三宅教育長が発表されたんで、このタイミングかなと思って。

先ほど実は1つ言い忘れたんですが、6ページにも書いてあるんですが、子供の頃から岡山の豊かな自然や固有の歴史文化を学び親しむことにより、地域を知り、地域を大切に思う心を育成ということを書いてありまして、実は前回のときもちょっとお話をしたかもしれませんが、今、岡山商工会議所、岡山市役所、それから岡山商工会議所青年部が一緒になって岡山市民の日の活動をしてる中で、毎年、おかやま川柳というのをやりまして、今回市長にもご登壇いただいたんですが、岡山のこの川柳、4万2,979、4万2,000、毎年どんどん上がってきております。特に、三宅教育長にもお世話になりまして、実は小学生の参加率が非常にここ数年上がっています。

その中で、僕も全部4万通は見てないんですが、メインのところを見ると、今年一番大きかったのがファジアーノ、やっぱりJ1に上がったということもあるんですが、あとはマスカット、桃というのがキーワードとして、あと鬼ですね、これは結構キーワードとして出てくるんですが、実はほかにあまりないんですね。でも、やはり岡山にはもっと、吉備国というのでも幾つかありますが、岡山城であるとか後樂園であるとかその辺は知ってるんでしょうが、例えば宇喜多の話は一切出てこないとか、それを見てると、岡山を知るといふ部分では、まだまだちょっとどうなのかなという中で、ぜひ、この前三宅教育長にちょっとお話ししたんですが、副読本みたいな、岡山を知る勉強の機会って多分、熱心な保護者の方がおられればそういうことをされるかもしれませんが、多少そういうところも今後、副読本みたいな部分で何か岡山の歴史とか文化とか吉備国、今、大森市長も吉備国はこうだという論説をされておりますが、そういうところを含めて、岡山にはこんなに偉人がいるんだということを知るといふのも郷土愛につながってくるんじゃないかなと。ちょっと具体的な話になって恐縮なんですけど、ぜひこのタイミングでお話ししたかったんで、すいません。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

○谷一委員 我々が子供の頃はあったよ。

○高谷委員 いや、今はないそうです。

○谷一委員 小学校の3年とか4年生で、紺色の副読本があつて。

○阿部会長 事務局のほうからお願いできますか。

○三宅教育長 教育長です。

実は副読本は、道徳に郷土愛の価値項目もあるので、あったんですが、最近はないんです。というのが、国の施策で教科としての道徳になりまして、国の検定図書は今道徳は使ってます。なので、高谷委員が言われたように、私も郷土の地元の道徳の教材で道徳

ができればっていうのは思ってますんで、計画にどう入るか分かりませんが、考えていきたいというのが1つと。

具体で今言われたんで、実は来週の月曜日の午後、中学校の生徒会役員の集いがありまして、しゃべりんぴっくというんですが、市長にも来ていただいて、一つのテーマが、地元愛について中学生に語ってもらおうと思っていますので、どんな意見が出るか楽しみにしております。いろいろありがとうございます。お世話になります。

○高谷委員 予算がなかったらみんなで募金しますんで、ぜひ。予算ありきにしないようお願いします。

○谷一委員 枠としては道徳じゃないといけないんですか。

○●●委員 おかしい、おかしい。

○谷一委員 おかしいよね。

○●●委員 総合学習でしょう、そりゃあ。

○三宅教育長 総合的な学習の探究か道徳でと思っています。あと、社会科でやるとしたら、史実に基づいたことになるので、どこまで岡山の今の歴史が語れるかというのはあると思うんですけど、検討させていただきます。

○谷一委員 本当の史実を言うと語弊がある。

○高谷委員 すいません、ありがとうございました。

○阿部会長 岡山委員、何か。

○岡山委員 何でもいいですか。

○阿部会長 何でもいいですよ。

○岡山委員 今回の総合学習でやるべき話だと思っておりますし、各子供たちの社会参画みたいなものを総合学習を通じてとか、あと学校教育外とかユースセンターみたいなものを通じてやるとか、それをどんどん強めていって若者と地域をつなげるということが非常に重要なことだと思っております。

高梁市なんかは、高校生とかが市の課を形成して政策を遂行するとか、株式会社をこの前つくって、高校の中に株式会社をつくって地域振興的なことをやるとか、随分先進的なことをやり始めていますので、岡山も、形だけちょこっと集めて意見を言わせて子ども議会でございますみたいな話ではなくて、ちゃんと政策を自分たちでふだんから考えてまとめるような、総合学習の時間ということになるかもしれませんが、そういう場を設けるということが1つ1つというか、かなり重要なことだと最近特に思っております。

ついでに。

○阿部会長 どうぞ。

○岡山委員 つい最近、政策投資銀行の岡山事務所に言って人口流出のデータを分析してもらったところ、20代前半の女性、特に女性、男性も含めてですけど、急に流出が強まって、これは岡山県の数字、日本人だけの数字です。強まっております。それから、高校の男がややこの2年間ぐらい流出が強まる傾向があるので、もしかしたら東京の大企業から大分採られるようになっていないかというおそれを持っております、その話が多分あさっての新聞に載るのではないかなと思う、掲載できるんじゃないかなと思ってますが、政策投資銀行さんが1つ提案したのは、リモートワーカーをもっと誘致するというか、そういう方向性はどうかということと言われておまして、リモートワークに対するサテライトオフィス、公設サテライトオフィスであるとかリモートワークの支援みたいなところをと言われておりました。私も最近よく会うのは、岡山の企業に勤めてるんじゃないけど岡山に住んでる人と、リモートワークでやってるんだという人に随分会うようにはなりましたので、1つ方向性かなと思います。

それから、個別の施策でいうと、産業振興で、後継ぎ問題というのも非常に大きいのではないかなと思っております。事業承継できなかつたら、東京大手のM&Aで全部、せっか

くあった地場企業がなくなってしまうかねない状況なんだろうと。岡山市のほうも後継ぎのことを一生懸命やられ出した感じはしてるので、そこはいいかなと思いますが、そういう後継ぎをちゃんとできるような支援といいますか、後継ぎというと男性だと決まってきましたけど、この前、中銀とかで話がありましたけど、中国銀行さんと広島銀行さんがやってるプロジェクトで女性の後継者というのもどんどん増えてきているので、そういうところも、女性もちゃんとそういうふう活躍できるような土壌づくりというのにも必要なんではないかなと思っております。

以上です。

○阿部会長 ありがとうございます。

他は、何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○阿部会長 事務局はよろしいですか。市長さんには最後にまた大々的に語っていただきたい。

やはり市民全般にとって分かりやすい、ひかれる内容になるような形にしないといけないですね。やはり一般的な話だと誰も見てもらえないですから。

○岡山委員 特徴的な文言ですよ。

○阿部会長 特徴、岡山とはこれである。

○岡山委員 何か打ち出したいものがありますね。

○阿部会長 なかなかやはり岡山地域、それから岡山县自体が市町村が分散してるところがありますんで、その中で岡山市がいかに求心性を強めていくかという、求心性を強めながら交流拠点になっていくような形で今後まちづくりを進めていかないといけないなという気がいたします。

それから、最近、お話にもありましたけども、外国の方が非常に増えてるなという。毎

日のように駅を通るんですけど、通りますと必ずうろうろと外国人の旅行者の方がされるといふ感じで、その方たちにいるんなところに訪問してもらえよう形にしないといけないなという気がいたします。

それでは、あまり私が語るのもなんですから、市長さん、またお願いできますか。

○大森市長 やりましょうか。

○阿部会長 はい。

○大森市長 えっ、終わりの。

○阿部会長 もうそろそろ終わりに近いかな。

○大森市長 はい。どうもありがとうございました。

私の尊敬する人の中に、読売新聞の橋本五郎さんという方がいるんですけど、その人が言った言葉に、家族を好きになりなさいと、家族を好きになれない人間は地域を好きになれない、地域を好きになれない人間は国を好きになれないということを書かれてまして、私、本人と話したんですよ。意気投合もしたんですけども、まず今日の今高谷さんとか谷一さんのおっしゃった、地域を我々は思った以上に知らないんじゃないかなということこの頃より痛感することになって、一方で、過去の歴史、教科書で書いてあることっていうのは非常に一方向から見た言葉が多いんで、そこで谷一さんが今話をされたのはそういうことじゃないかなと思うんですけど。

ただ、本当にいろいろとした調査は進んでいます。そういったところから見て、本当の地元の先祖たちは一体何をやってきたのかっていうふうなことを子供たちに考えさせんと。私はこの前、瀬戸中学校の生徒が、万富の瓦窯、瓦を焼いて、源平合戦で焼けた東大寺を再建したっていうのを一生懸命調べてくれて発表をしてました。心は非常に浮き浮きとやっている感があったところであります。そういったことをやっぱりぜひこれからやっぴかなきゃならないなというように思っております。

それから、よく、全く話は違って、今度は岡山さんの話になるんですけども、22歳、3歳で大学を卒業して岡山からいなくなる、何とかそれを阻止する。これは私は学生の勝手

でしょというように思うんですけどね。学生たちが本当にこの岡山の企業のことを知って、また岡山の地域を知って、岡山へ残ってくれるなら、それはそれでもいい。

もう一つやっぱり考えていかなきゃいけないのは、先ほどリモートワークって言いましたけど、それとともに、私は、雇用の流動性、一つのところにいてずっとそこにいなきゃならないっていうものっていうのは違うんじゃないか。ここもずっと岡山にいる人ってのは案外少なくて、大体阿部会長そのものがそうですよね。それぞれでみんながいいところをやり、その地として岡山が選ばれるっていうのは私は非常にいいんじゃないかと。先ほど、何度も繰り返しますが、岡山市の規模、そして岡山の場所、こういったところの特色をどうやって出して行って、岡山にとどまり、また戻ってくる、そういったことができるっていうことを考えていくっていうのが我々のやるべきことかなというように思っています。

今日のいただいた様々な意見を踏まえて、優秀なスタッフが整理をいたしまして、11月にまた議論させていただきたいと思います。その際にも私がここに座れるように頑張っておきます、よろしく願いいたします。

○阿部会長 ありがとうございます。

それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。よろしく願いします。

5 その他

○司会 ありがとうございます。

では、次回第3回目の審議会は11月10日を開催予定としておりますので、よろしく願いいたします。

6 閉会

○司会 これをもちまして令和7年度第2回岡山市基本政策審議会を閉会いたします。皆様ありがとうございます。